

JAひまわりが花き・青果総合集出荷貯蔵施設を再編整備

東三河農林水産事務所

強い農業づくり総合支援交付金を活用した花き・青果総合集出荷貯蔵施設の整備が令和5年度に行われ、令和6年4月に竣工式が行われました。

1 事業実施の背景及び目的

JAひまわりでは、5カ所の集出荷施設（青果3カ所、トマト1カ所、花き1カ所）で集出荷を行ってきました。しかし、冷蔵施設の能力不足による販売機会の逸失、出荷量の低下による流通コストの増加、菊類の生産者が実施している選別・箱詰め作業の外部委託の要望の増加が問題となっていました。

そこで、令和5年度、青果2カ所、花き1カ所に施設を再編整備・集約することにより、これらの問題を解消し、産地の生産力・競争力の強化を図ることとしました。

総事業費は2,306,700千円で、うち補助金（国費）は1,014,134千円、うち補助金（市費）は101,413千円です。

2 取組及び効果

(1) 品質向上と出荷物の確保

品目に応じた温度管理ができる冷蔵施設を新設することで出荷場内での品質低下を抑制し、彼岸、お盆など需要が多い時期でも出荷物を確保できるようになりました。

(2) 物流問題への対応

施設集約により集出荷施設での作業効率が向上し、施設あたりの出荷物量を増やすことで輸送の合理化が図られました。

(3) 出荷調製作業の省力化

スプレーギクのバラ受け（生産者がJAに選別・箱詰め作業を委託）施設を新設することで利用者の出荷調製作業時間を減らすことができました。

3 今後

利用計画に基づいた円滑な運用ができるよう関係機関と連携し支援していきます。



竣工式で挨拶するJAひまわり組合長



荷受・検査ライン（花き）